

2年D組 社会科 学習指導案

指導者 西田 剛志

1 時 間（場所） 10：00～10：50（2年D組教室）

2 個人研究テーマ

社会の形成者の一人として未来を構想する社会科学習の展開

3 研究テーマ設定の理由

将来の予測が困難な、複雑で変化が激しい今の時代に生きる生徒たちには、しっかりと社会や世界に向き合い、関わり合い、現在と未来に向けて、自らの人生を切り拓いていくことが求められている。

そこで生徒たちに、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会の中での立ち位置を自覚させ、社会や世界の中で自ら問いを立て、多様な人々と「きょうどう」しながら問題解決を目指させたいと考えた。また、持続可能な社会の形成の観点からの考察を通して、社会的事象を身近に感じさせ、様々な問題の解決に向けて主体的に取り組ませたいと考えた。これらの活動を通して、「持続可能な社会」の形成者の一人として社会に参画し「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」に向けて歩み続けるために必要な資質・能力を育成したいと考え、本研究テーマを設定した。

4 単元名 日本の諸地域「中国・四国地方」

5 単元目標

- 中国・四国地方の地域的特色を、交通や通信を中核として、都市の形成や人口の減少、産業の発達や衰退、生活の変化と関連付けて多面的・多角的に考察し、理解することができる。
- 人口減少社会において、中国・四国地方に住む私たちは、社会の形成者の一人としてよりよい社会をつくるためにどうすれば良いのかを、地域の持続可能な社会づくりの観点から考察し、その解決に向けた構想を適切に表現することができる。

〔本質的な問い〕

人口減少社会において、私たちは、持続可能なよりよい社会をつくるためにどうすれば良いのだろうか。

〔永続的な理解〕

人々の営みは、自然環境のみならず、他の地域との結び付きや様々な事象との関わり合いの上に成立している。そして人々は、地域が発展したり衰退したりする中で、努力と工夫をしながら生きている。急激な少子高齢化が進み、人口が減少する今、私たちは、地域の姿を的確に捉え、持続可能なよりよい社会をつくるために地域の未来を思い描き、他地域の人々の営みにならない、その効果を見だし、適切に生かしていくなど、社会の形成者の一人として主体的に参画すると良い。

6 本単元と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒は継続的に、小集団で役割分担して課題に当たる問題解決的な学習に主体的に取り組んできた。生徒は、この学習展開が見方や考え方を広げるとともに、お互いの学びが生かされることにやりがいを感じられる活動であるとしている。また、昨年来取り入れた「問答ゲーム」やパフォーマンス課題により、生徒は、論理的に思考し表現しようとするようになった。しかし、問題解決的な学習において「きょうどう」する学習者として追求成果を持ち寄る際、意見を述べるときに根拠となる資料は多く得ているものの、十分に使いこなせていない、あるいは、表現できていなかったりする生徒がいる。また、パフォーマンス課題に対しては、「問答ゲーム」で身に付けた表現方法、例えばまず結論を、そして、その理由をナンバリングしながら述べる方法は使えても、その根拠が不十分である生徒が24%いる。論理的に思考し表現

する学び合いができるよう、また、社会的な見方・考え方を自在に働かせて活用できるよう、指導や学習展開の工夫が必要であると考えます。

(2) 単元について

本単元では、日本の諸地域「中国・四国地方」を扱う。また、これを七地方区分の最後に学習する。ここでは、中国・四国地方の交通網や通信網の発達に関する特色ある事象を中核とし、産業や人口や都市・村落など他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、中国・四国地方の地域的特色を明らかにすることを主なねらいとしている。その際、中国・四国地方という地域の広がりや地域内の結び付き、他地域との競合関係といった、地域や空間的相互依存作用などに着目し、地域間の結び付きの整備による人間の営みの変容や持続可能な社会づくりに関わる課題を捉えさせ追求させるものとする。

以上を踏まえた中国・四国地方は、日本海と中国山地、瀬戸内海、四国山地と太平洋といった地形で、山陰、瀬戸内、南四国の三つの地域に分けられ、それぞれに違う人々の営みが見られる。このうち国内で唯一の内海に面した瀬戸内は、海上交通を生かして瀬戸内工業地域が形成されたり人口の増加により都市が形成されたりするなど比較的発展している。更に、東西に延びる陸上交通としての山陽自動車道や山陽新幹線、海をまたぐ本州四国連絡橋などの開通により、関わる範囲が拡大して生活の変化が促されている。一方、山陰や山間部、島しょ部では、高度経済成長とともに人口が減少したり、地場産業が衰退したりするなど過疎化の進行が著しい。近年は、日本海側と太平洋側などを結ぶ高速交通網の整備やインターネットなどの通信網の発達により、中国・四国地方内はもとより、広く他の地域と結び付くことを生かして、新たな産業を生み出したり地域おこしをしたりして過疎化対策に取り組んでいる地域も見られる。逆に、交通網の整備が、他地域との新たな競合関係を生み、人口の流出や商業の衰退など、新たな問題が発生している地域も見られる。人口減少社会の日本において、とりわけ過疎地域が多く含まれる中国・四国地方では、持続可能なよりよい社会づくりが重要な課題であるといえる。

本単元の学習は、中国・四国地方に暮らす生徒にとって、知識や直接体験が多いため、地域の課題解決に向け、地理的な見方・考え方を働かせて主体的に学習に取り組ませやすい。そして、生徒たちに、社会の形成者の一人として地域を適切に捉えて将来像を構想し、「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」よう社会参画するために必要な資質・能力を育成する上で重要である。

(3) 指導について

本単元の目標を達成するために、中国・四国地方における社会的な事象に主体的に向き合わせ、課題意識を持たせる必要がある。そのため、社会の動きと自分自身とが深く関わっていることに気付かせるために、既習事項や地域の地理的事象を用いるなど教材の工夫をする。また、学習問題「持続可能な中国・四国地方の在り方を考えよう」に対して、すべての生徒に主体的に学習に臨ませ、「きょうどう」の精神を発揮させるために、お互いが協働学習者であることを前提にして、小集団で様々な地理的事象を分担して調査をさせる。調査の際、論理的に思考し表現させるために、その事象が成立した背景に着目させる。また、過去や現在、将来の姿といった時間軸にも着目した地理的な見方・考え方を働かせるために、問いやワークシートを工夫する。更に、その調査結果を持ち寄せ、比較や関連付けをさせたり、自分の考えを根拠とともに説明させたりしながら、対話や議論を通じて多様な考えを理解したり自分の考えを広げたりできるような場を設定する。そして、ここで用いた見方・考え方を生かし、社会の形成者の一人として持続可能なよりよい社会をつくるために、地域の未来を構想する場を設けることで、「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」よう構想し続ける実践力を身に付けさせたい。

評価に際しては、パフォーマンス課題を適切に設け、生徒自身に思考判断、表現の力等の成長や変容を実感させることにより、資質や能力の育成につなげたい。

7 評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
① 中国・四国地方の地域的な特色について、興味・関心を持って意欲的に追求しようとする。 （関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 あなたは中国・四国地方の調査の結果、交通網や通信網の整備により、産業や人口や都市・村落が発展したり衰退したりしたことを知りました。人口減少社会の今、私たちが住む地域を、持続可能なよりよい社会にするために、どうすればよいのか、B5判1枚のレポートにまとめなさい。 （評価目標の①②） ○ワークシート（評価目標の②③④） ○ペーパーテスト（評価目標の③④）
② 交通網や通信網に関する特色ある事象を中核とし、産業や人口や都市・村落など他の事象と関連付けて多面的・多角的に追求し、地域の変容や持続可能な社会づくりに関わる課題を考察し、その結果を適切に表現することができる。 （思考・判断・表現）	
③ 学習問題やパフォーマンス課題の解決に向けて、収集した資料や他者の学習成果、意見を適切に選択して、読み取ったり図表に整理したりすることができる。 （資料活用）	
④ 交通網や通信網に関する特色ある事象を中核とし、産業や人口や都市・村落など成立や変容と関連付けて、中国・四国地方の地域的特色を理解することができる。 （知識・理解）	

8 指導計画（全8時間）

次	学習内容	評価規準（観点）	時間
1	交通や通信から見た中国・四国地方の地域的特色を捉えよう。 ○瀬戸大橋の開通やインターネットの活用による生活の変化 ○自然環境と三つの地域 ○産業や人口や都市・村落、過疎地域 ○海運と瀬戸内の工業地域 ○交通の整備と農業・漁業の全国展開 ○交通や通信の整備効果と課題	◇交通や通信の整備による産業や人口や、都市・村落などの成立や変容に興味を持ち、中国・四国地方の地域的特色について追求しようとする。 （関心・意欲） ◇中国・四国地方に関する地理的事象について資料を活用し、位置や広がり留意しながら自分なりに解釈して白地図に整理し、表現している。 （資料活用） ◇中国・四国地方の交通や通信の整備と、産業や人口や都市・村落などの成立や変容について理解している。 （知識・理解）	4
2	愛媛県今治市での取組を、「持続可能な社会をつくる」という観点から、その効果を検証しよう。 ○今治での取組とその効果 ○持続可能なよりよい社会をつくるための今後の在り方	◇問題解決に必要な情報を収集し、ワークシートに整理し、中国・四国地方の地域的特色を理解している。 （資料活用）（知識・理解） ◇持続可能な中国・四国地方の在り方について追求するために有用な情報を適切に選択し、級友に説明したり、級友から新たな意見を得たりしながら、多面的・多角的に自分なりに判断して考察し、表現している。 （思考・判断・表現）	3 本時 (その3)
3	パフォーマンス課題に取り組もう。	◇パフォーマンス課題に意欲的に取り組み、収集した資料や情報を根拠に、多面的・多角的に考察している。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現）	1

9 本時の指導（7／8時間）

(1) 主 題 持続可能な中国・四国地方の在り方を考えよう

(2) ねらい

- 今治市での取組とその効果について様々な資料を用いて多面的・多角的に考察し、中国・四国地方の地域的特色を理解する。
- 社会の形成者の一人として、地域の実情に合った持続可能な社会をつくるという観点から中国・四国地方の在り方について考察し、表現する。

(3) 展 開

学習活動(形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫◇評価(方法)
1 中国・四国地方の交通や通信の整備と今治市の状況を確認する。 (一斉)	5	○中国・四国地方における今治市の産業や都市・村落の成り立ちと現状を、位置や交通の面から確認しよう。 ・海運業と関連して造船業が盛んになった。 ・しまなみ海道が開通して生活が変化した。 ・消滅可能性都市とされている。	○社会的事象を多面的・多角的に捉えさせるために、産業や都市・村落の成り立ちと交通の整備など、様々な事象を関連付けて確認させる。
学習問題①	県内第1位の工業製品出荷額、第2位の人口を持つ今治市が、消滅可能性都市である。今治市での取組は、人口減少に対してどのような効果があるのか検証しよう。		
2 今治市での取組の効果について調査結果を検証し、共有する。 (全体)	15	○取組の背景とその効果を発表しよう。 海事都市今治、海運業、造船業 は一ぱりー 今治タオル、伯方の塩 パリィさん、F C今治 今治焼豚玉子飯・焼き鳥・せんざんき 岡山理科大学獣医学部 しまなみ海道とサイクリングロード 今治城、村上海賊、大山祇神社 桜井漆器、菊間瓦 今治新都市、ショッピングモール	○論理的に思考し表現させるために、事象の背景を空間軸、時間軸にも着目したワークシートにまとめさせたり、協働学習者として分担して調査した結果を持ち寄らせ、自分の考えを根拠を明確にして説明させたりする。 ◇担当した事象について多面的・多角的に考察し、課題に対して根拠を明確にして説明している。 (ワークシート)
学習問題②	今治市での取組の効果について再検証しよう。		
3 今治市での取組の効果について再検証する。 (小集団) ↓ (全体)	23	○次の観点から検証しよう。 何か別の問題は起こらないのか その地域の実情に合っているのか 持続可能なのか 今治市のどこの地域に効果があるのか どこの地域でも効果があるのか } ・しまなみ海道沿いにはにぎわうが、他の地域には無関係だ。 ・中心市街地では効果が得られるが、島しょ部では限られている。 ○私たちが住む松山では、どのような取組が効果があるのだろうか。	○社会の形成者の一人としての自覚の下、将来に向けて実現可能性を踏まえた構想をさせるために、「どこ」に対する取組であるのか、地域を明らかにして検証させる。 ○実感を持って将来の構想をさせるために、身近な地域の事例をあげさせる。
学習問題③	人口減少社会において、私たちは、地域を持続可能なよりよい社会にするために、どうしたらよいのだろうか。		
4 本時の学びを振り返る。(個人) ↓ (全体)	7	・地域の姿をしっかりと捉え、地域の未来を思い描き、他地域の人々の営みにならない、その地域にあった取組を生かしていくなど、自分の事として社会に参画すると良い。	◇地域を適切に捉え、将来に向けた構想について自分の考えを述べている。 (ワークシート・観察)
授業研究の視点	○学習活動2・3は、地理的な見方・考え方を自在に働かせ論理的に思考し表現できるようにする学びであったか。 ○学習活動3・4は、社会の形成者の一人であることを自覚させ、「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」よう構想する姿勢につながる学びであったか。		